

..... は し が き

ニールスの旅

日本白鳥の会会長 家 田 三 郎

昭和48年6月24日、東京四ツ谷の主婦会館ではじまったこの会には、いくつもの希望があった。そのうちのひとつ、IWRB国際会議の日本開催は7年目の今年2月に北海道で行われた。これには北海道の松井さんをはじめとする大きい努力があったし、大変な御苦労だったと思う。不可能を可能にした。

白鳥のことを知らない私なども仲間にしていただいて、毎年、一度は皆々様にお会いできるのであるが、いつも思うことは、その都度、日本の各地に渡ってくる白鳥にまみえている思いをいただく。

その土地その土地で、リーダーとなって、いろいろのことを実行され、会報にも毎号その報告がある。東京へ出てくるにはあまりにも遠いところから論文だけを載せられる方もおり、有益という思いがする。

労苦の多い冬の期間ばかりでなくそこに四六時中の実行を見る。

水鳥の観察記録は環境庁のものもあるが、しかしわが会員でもある環境庁鳥獣保護課の堀内さんは、白鳥の会の仕事を特に大切にしていると述べていられた。

昨今、「華麗な体系」という言葉をきかされる。その中にわれわれは、楽しくおかれているのだという。この華麗の意味は原始とは全く正反対のものだともきく。原始というものはもう必要がないのであろうか。そんなことを考えながら、会員の皆様にお会いすると、お名前を上げるのはどうかと思うが、横田さん、大森さん、島山さん、門脇さん、などどうしても「原始」の方に近いと感じられるし、東京にお住いの堀内さん、阿部さんなども「華麗」な方ではおられないように思う。

ニールスの「不思議な旅」を孫にすすめられて見たが、あんな少年、あるいは、おじいさんが、日本にもいるのではないか。努力のおかげで国際会議もできたように、この「旅」もできると思っている。